

2024年度 岡山大学入試解答例 国語

岡山進研学院

問題一 出典 西川明彦『正倉院のしごと 宝物を守り伝える舞台裏』(中公新書・中央公論新社 2023)

問一 ア⇨背丈 イ⇨策 ウ⇨比較的

問二 強

問三 戦争で疲弊した国民を励ます目的を端緒に、皇室文化の至宝の公開を待ち望む人々の気持ちに応え、公益性の観点から格差のない享受を可能にするもの。

(二行 69字)

問四 正倉院展を、特別料金を徴収する特別展として開催し、期間や観覧者を経済的な強者に限定して、公益性よりも収益性を図ること。

(二行 59字)

問五 正倉院の貴重な宝物を、公益性の理念のもと低料金で観覧可能な常設の公開施設をつくり、良好な保存環境を保ったまま展示することで、宝物の部分的な紹介ではなく、正倉院に関わる本質を理解できる展示を企画すべきである。

(三行 103字)

問題二 出典 出典 川上未映子『すべて真夜中の恋人たち』（講談社文庫 2014）

問一 「聖」は容姿が洗練されて、独特のオーラがあり、機転が利きウイットや周囲への配慮もできる人で、「わたし」を好意的に受け入れてくれる、と思わせる印象。
(二行 73字)

問二 自分の返事が的外れで軽蔑されたかと不安になり動揺していたが、意外にも話を正面から受け止め、フリーになるという予想外の解決策を出されて驚いたから。
(二行 72字)

問三 会社を辞めることもフリーの校閲者として生活することも考えたことがなかったのに、聖の提案を機に、逆にそれ以外の選択肢がなかったかのように思うこと。
(二行 72字)

問四 フリーでの生活に充実感を期待しつつも、一方で現実味がなかったが、聖にフリーになってももらえたらありがたいと言われ、驚きながらも素直に嬉しかったから。
(二行 73字)

問五 「信用」は一方的で、利害や都合で変化する流動的なものであるが、「信頼」は、相手の仕事に対する姿勢や、裏付けとなる経緯や努力と受け止める自分との双方向で消えることのない心のつながりである。
(三行 93字)

問題三 出典『宇治拾遺物語』卷十一「白河法皇北面、受領の下りのまねの事」

問一 ア 鳥羽殿においでになった時、

イ どうしてこんなに遅いのであろうか。

ウ ああ、すばらしかったものだなあ。

エ 単に御所に参上する者について言っているのだろう。

問二 他人に前もって着飾った姿を見られたならば、見慣れてしまつて、本番での面白みがなくなるに違いないから。

(二行 52字)

問三 自分が列に加わるであろう時刻を過ぎている上に、門の外で行列を觀終つたような人々の感想を耳にしたから。

(二行 51字)

問四 主人の命を言葉通りにしか受け取ることができない愚かな従者のために、せつかくの準備が無駄になり、参列できずに終わってしまった行遠の間抜けな次第を滑稽に思ったから。

(三行 80字)

問題四 出典 蘇軾『東坡集』

問一 だから竹を描くには、必ずまず成長した竹を心の中で理解し、
思い描きなさい。

(二行 36字)

問二 素早く筆をふるい一気に書き上げないと、自身で理解し、
心に描いた竹の姿が消えてしまうということ。

(二行 47字)

問三 かくのごとし

問四 心の中で物事の本質を理解したつもりでも、技量が伴わない
ことによっておこる具現化の難しさは、あらゆる物事において
あてはまるということ。

(二行 66字)